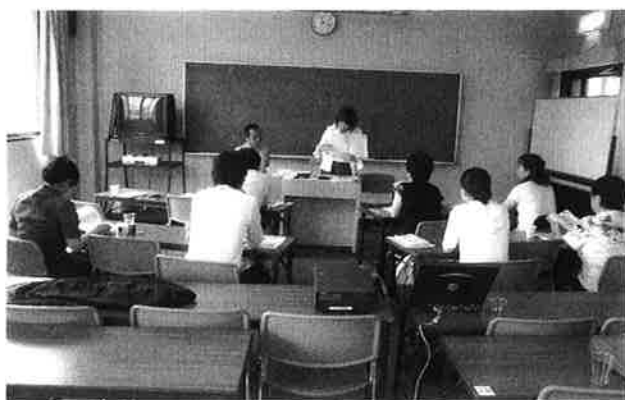


朝地町「地域通貨」コア

別府大学文学部人間関係学科

教授 秋田 清



豊後大野市朝地町商工会は、平成15年度から、地域通貨事業に取り組んでいる。この事業は、少子・高齢化の進んだ農村過疎地域において、商工会女性部を中心に、お互いの助け合いと地域の商工業の活性化を目的としている。本年度は、商工会青年部や女性部だけでなく、農業従事者や女性代表などを含めた委員会が発足し、活動している。

8月には、先進地研修で、草津市の「おうみ」を見学した。「おうみ」は活動を中止していたが、「ノーリリース・ありがとう券」事業などの報告を聞いた。琵琶湖に捨てられた外来魚を釣り人が釣ったとき、それと交換に「ありがとう券」を渡し、釣り人は加盟店で商品と交換できるというシステムである。「おうみ」が休止したのは、中心になっていた人の転勤が直接の切っ掛けだそうだが、新しい運動が地域に定着することの難しさと、運動に意味を見出し、推進力となる中心人物の存在の重要性を示している。

地域通貨「コア」は、今年度は、農業者や女性代表も加わり、農産物、家庭で要らなくなった物の交換、梅農園の経営などを検討し、地域内での「コア」の循環の促進を目指している。

朝地町商工会の地域通貨の取り組みの始まりは、平成14年度にさかのぼる。この年、大分県商工連合会婦人部は、全国商工会連合会の呼びかけに応じて、地域通貨の研修を開始した。講演会や

地域通貨「ピーナッツ」の見学、第1回地域通貨国際会議への出席など導入に向けての準備を行った。

平成15年度には、朝地町、大野町、清川村の3町村で導入実験を行った。3ヶ月間の実験に参加した人は124人。交換されたサービスは、運転代行、買い物代行、草取り、ガラス拭き、手芸、園芸、パソコン指導など交換数は324件であった。参加者は、受けたサービスとともに、それまで、顔を知っていた程度だった他町村の会員たちと交流ができ、親しい友達になれたことに意味があり、楽しかったと語っていた。

16年度からは、サービスの交換に限定された「エコマネー」を発展させ、福岡県吉井町方式に学び、100コア=100円の地域通貨を発行し、物の交換にも使えることに重点を置いた。これは、大分県や商工会の補助金の一部、会員からの出資金によって、元資を作り、それに見合った「コア」を発行、事務局でいつでも現金に換えられるようにした。

18年度は、農業者や商工会青年部、行政からの委員も加わり、交換の広がりを図っている。また、観光客の参加と元資の確保のために、梅園の経営などを計画している。